

今年度も半年が過ぎ、いよいよ後半です。10月は、これまでの取組の上で、学級が大きく成長していく時です。また、過ごしやすい気候となり、腰を据えて学級づくりに向き合える時でもあります。4月に思い描いた学級づくりと現在の姿を比べながら、後半の学級づくりへの見通しと、子どもたちに育みたい力をもう一度明確にしていきたいものです。

<小学校>

合唱づくりは学級づくり

学級合唱をする時には、学級担任は教科担任と連携し、歌の背景を調べたり、どんな願いをもって歌うか話し合ったりしていきましょう。互いの思いを知りながら合唱を仕上げていくことができ、一体感のある学級が生まれていきます。

「怪獣のバラード」をカッコよく歌おう！

怪獣のお面をつくらせて歌おうよ！

発見！「公害」のことなんだって。

ただカッコよく歌えばいいわけではないな。

「怪獣」には何か意味があるのかな？

そんな意味があるんだね。ではどんな気持ちで歌いたい？



未来へ向かっていくような力強さを出して歌おう！

集中しやすい教室環境づくり

教室環境に目を向けて工夫したことで、子どもたちが集中しやすくなった例です。

- ① 教室の前面の掲示物、棚等をすっきりさせてみたら→ 黒板に注目しやすくなりました。
- ② 椅子の音が響くので、椅子の底にゴムボールを付けてみたら→ 教室の子どもたちの声が自然とおだやかになりました。
- ③ 教室内の物の置く場所を決めて掲示したら→ 子どもたちが自分で活動を進められるようになり、意欲的になりました。

放課後、誰もいなくなった教室で、子どもの椅子に座り、自分の教室を見回してみてもいいかがですか。子どもの見ている世界が見えてくるはずです。子どもの立場になって集中しやすい環境づくりを始めてみましょう。

<中学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

「凡事徹底」で自信をつける

当たり前のことを当たり前にする。こうした「凡事徹底」こそが、学級づくりにおいて重要なポイントです。そこで「挨拶」「整理整頓」「時間を守る」の3点のどれか一つを徹底してみませんか。これらと学級づくりとは、不思議なくらい関連があります。

「凡事徹底」実現の3ヶ条

- 1 教師の率先垂範
まずは教師が見本を示していく。
- 2 目に見える目標設定と確かな評価
生徒自身による明確な目標設定を掲示し、それに向けて努力している姿を認めていく。
- 3 一貫性のある指導
とにかく根気よく取り組む。その際、家庭生活においても同じ取組ができるように保護者にも協力をお願いしていく。

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

文化祭の振り返りを次の意欲へ

振り返りは一人一人の取組のよさを伝え合い、達成の喜びを味わうとともに、次への意欲につなげていきたいものです。一つの例を紹介します。

体育祭当日、前日雨が降ったグラウンドの整備を朝6時前から始めていた中2体育委員のAさん。

Aさんのおかげで体育祭が成功したので感謝です。(Bさん)

後輩がAさんを見ていて立派だったと言ってたよ。(Cさん)

Aさんは、その後体育委員会の駅伝クラスマッチの運営、日常の当番活動を積極的にを行い、中3では、体育委員長として文化祭の体育祭を企画・運営をするまでに成長しました。

振り返りでは、目に見える結果だけではなく、陰で頑張っていた存在に目を向け、感謝し、認め合っていきたいものです。その相互評価が次への意欲を高めます。